

令和元年度 日野市平和事業

# 平和派遣事業成果報告書

< 沖縄・長崎・広島 >



日 野 市



# 目次

1 令和元年度日野市平和事業.....	2
(1) 日野市平和講演会.....	2
(2) 平和展「風化させてはいけない戦争の記憶」.....	2
(3) 平和映画の集い「アオギリにたくして」.....	3
2 平和派遣事業の趣旨・目的.....	4
(1) 平和派遣事業.....	4
(2) 平和派遣事業報告会.....	4
<b>派遣者発表 沖繩</b> .....	5
滝合小学校 4年 阿部 蒼太さん 保護者 阿部 麻希子さん.....	6
潤徳小学校 4年 権田 百春さん 保護者 権田 雅之さん.....	8
仲田小学校 5年 釜瀬 椋朋さん 保護者 釜瀬 日哉さん.....	11
日野第五小学校 6年 渡辺 満ちるさん 保護者 渡辺 健太郎さん.....	13
日野第二中学校 2年 南本 英理さん 保護者 南本 純子さん.....	15
<b>派遣者発表 長崎</b> .....	17
潤徳小学校 2年 山崎 希さん 保護者 山崎 理恵さん.....	18
滝合小学校 4年 伊東 朋洋さん 保護者 伊東 洋輔さん.....	20
七生中学校 1年 島村 侑那さん 保護者 島村 由佳さん.....	22
<b>派遣者発表 広島</b> .....	25
潤徳小学校 4年 角川 凜さん 保護者 角川 ちひろさん.....	26
日野第六小学校 5年 川上 陽美さん 保護者 川上 陽子さん.....	28
三沢中学校 2年 谷口 義哉さん 保護者 谷口 綾さん.....	30
3 来場者アンケート.....	33
4 日野市民憲章／日野市核兵器廃絶・平和都市宣言.....	34

# 1 令和元年度日野市平和事業

日野市では、毎年 8 月を平和月間と定め、平和推進を掲げるさまざまな事業を行っています。平和事業として行われるもののほかにも、教育、福祉など、様々な角度から平和に繋がる取り組みを行っていますが、ここでは平和事業として行われたものの一部を掲載します。

## (1) 日野市平和講演会

広島市から被爆体験伝承者の方を招き、被爆体験者から受け継がれた貴重なお話を伺う講演会を開催しました。

日 時	令和元年 7 月 13 日(土) 14 時 00 分から 15 時 30 分まで
場 所	ひの煉瓦ホール(市民会館)小ホール
講 師	被爆体験伝承者 橋 光生 さん
参加費	無料
参加人数	85 名



平和講演会で講演中の橋さん

## (2) 平和展「風化させてはいけない戦争の記憶」

本事業は、平成 10 年から開催しており、毎年テーマを替え行っています。戦争に関する写真パネルを展示し「戦争の悲惨さ、命の大切さ、平和の尊さ」の再認識と、平和意識の高揚を図ります。

令和の時代となり、改めて「風化させてはいけない戦争の記憶」をテーマに、戦争の悲惨な状況や原爆が落とされた前後の広島風景などのパネルを展示しました。

日 時	①令和元年 8 月 6 日(火)から同月 15 日(木)まで ②令和元年 8 月 22 日(木)から同月 28 日(水)まで
場 所	①多摩平の森ふれあい館 ②市役所 1 階 市民ホール

### (3) 平和映画の集い「アオギリにたくして」

映画を通じて平和への意識啓発や、平和を再認識する機会として、昭和 61 年以降毎年開催しています。今年は広島平和記念公園の被爆アオギリの木の下で、多くの子どもたちに自らの被爆体験を語り続けた女性の生涯の物語を上映しました。

また、平和派遣事業に参加された皆様による報告会を同日に開催しました。

日 時 令和元年 8 月 25 日(日) 13 時 30 分～  
場 所 ひの煉瓦ホール(日野市民会館)大ホール  
参 加 費 無料



## 2 平和派遣事業の趣旨・目的

平成 26 年から始まった日野市平和派遣事業は、第二次世界大戦下で多大な戦火に遭った「広島」「長崎」「沖縄」の各所に、市内在住の小中学生及びその保護者を派遣し、平和について学んでいただく事業です。

また、学んでいただいた内容を発信し、広く市民と共有していただくことで、二次的な平和意識の伝播を促進し、日野市民全体への平和意識の啓発を図っています。

### (1) 平和派遣事業

派遣期間 令和元年 7 月～8 月

派遣先 広島、長崎、沖縄

派遣者 下表のとおり

(発表順、敬称略)

派遣先	派遣児童生徒	保護者
沖縄	阿部 蒼太	阿部 麻希子
	権田 百春	権田 雅之
	釜瀬 椋朋	釜瀬 日哉
	渡辺 満ちる	渡辺 健太郎
	南本 英理	南本 純子
長崎	山崎 希	山崎 理恵
	伊東 朋洋	伊東 洋輔
	島村 侑那	島村 由佳
広島	角川 凜	角川 ちひろ
	川上 陽美	川上 陽子
	谷口 義哉	谷口 綾

### (2) 平和派遣事業報告会

映画の集いと同日に開催し、お集まりいただいた皆様に、派遣された皆様の思いを発表していただきました。それぞれが感じた生の声に対し、それぞれが平和への思いを馳せました。

日 時 令和元年 8 月 25 日(日)

会 場 ひの煉瓦ホール(日野市民会館)大ホール

# 派遣者発表 沖縄



ぼくは野球と沖縄の美しい海が大好きです。

沖縄であった戦争のことを身近に感じるために、ぼくと同じ子どもたちの生活や野球に注目して視察をしました。

沖縄戦のことを詳しく知るため、平和祈念公園の資料館を見学しました。

人々はガマの中に身を隠し、明日生きているかも分からない生活をしていました。子どもたちは、いつも怖い思いをして、お腹を空かせ、勉強や遊びどころではありませんでした。

摩文仁の丘の平和の礎には沖縄戦で亡くなった人々の名前が刻まれています。24万人を超えています。日野市の人口18万人より多くの方が亡くなっていたことに驚きました。

沖縄セルラースタジアム那覇にある野球資料館では、戦争と野球のかかわりを学びました。沖縄戦では、僕と同じ野球が大好きな生徒たちも学徒隊に入れられて、戦争に加わりました。学校は壊され、戦闘や自決でたくさんの生徒が命を落としました。

戦後、沖縄の高校も念願の夏の甲子園大会に出場しました。でもアメリカが統治している沖縄は外国と同じで、選手たちは甲子園の土を持ち帰れず、泣く泣く捨てたという事がありました。戦争は終わっても、戦争の悲しみが続いていると思いました。反対に、アメリカ軍の人と沖縄の人が一緒に野球を楽しむ事もあったと知りました。スポーツは国を超えて、人と人とが交流し、仲良くできるのだと思いました。

この視察で、ぼくは戦争は絶対に繰り返してはいけないという気持ちがもっとももっと強くなりました。毎日当たり前にご飯を食べ、野球ができるのはとても幸せなことです。ぼくは野球を頑張って、世界の人と交流して、平和のためにできることを見つけたいです。



沖縄派遣

滝合小学校 4年生 阿部 蒼太さん

保護者 阿部 麻希子さん



平和祈念資料館

平和の礎



野球資料館

学徒隊の行進



破壊された学校

甲子園の土を混ぜて作った皿



潤徳小学校 4年生の権田百春です。

八重山における戦争マラリアの実態について調べてきました。

調査の目的は、私が1才半からの七年間暮らした石垣島で、戦争マラリアの慰霊碑や祈念碑は何度も見たことがありましたが、戦争マラリアの実態については知らず、現地で調べてみたかったからです。

戦争の語り部をしておられる、石垣島在住のしおひらまさみち潮平正道さん 88 才を紹介していただき、直接お会いして、貴重な絵を見たりお話を聞いたりし、また戦争跡地を案内してもらいました。

#### 調査 — 潮平さんの自宅

聞いたお話では、昭和 19 年ごろからは、空襲が激しくなり、住民は皆、自分の家のお墓に隠れるまでになっていました。

家畜は、敵の食料になってしまわないように自分たちの手で殺し、食べ物はどんどん減っていきました。

昭和 20 年 6 月 1 日、日本軍の命令により、一般住民が、マラリア有病地帯へ、地区ごとに 6 月 10 日までに移動するよう、強制移動の命令が出ました。

石垣島だけでなく、その近辺の波照間島、あらぐすく島、黒島、竹富島など、八重山の島々は有病地帯の西表島に、強制移動させられました。有病地帯であったことは、日本軍もアメリカ軍も、もちろん島民も知っていました。

#### 調査内容 — 亀甲墓

お墓の名前の由来は、形が、亀甲(亀の甲ら)の形をしているからです。中央にある、石の小さな入り口を開けて中に避難したそうです。

#### 調査内容 — 暁の塔

野戦病院があった場所に暁の塔があります。いまはパイン畑とサトウキビ畑が広がっていて、まさか野戦病院があったとは知りませんでした。

### 調査内容 — 通信指令室跡

背よりも高い草むらを抜けた先には、かなりしっかり作られた、大きく立派な防空壕があり、当時通信指令室として使われていました。

### 調査内容 — 平和祈念館

戦争マラリアについての記録や、どんな過程をたどってマラリアの被害が拡大したのか、また、マラリアの撲滅に至った方法などを詳しく教えていただきました。八重山の一般住民は、戦争マラリアにより約 3600 人余りの方が犠牲となりました。

### 調査内容 — 戦争マラリア慰霊碑

慰霊碑の中には、戦争マラリアでなくなった方の名前が刻まれた小石が収められています。

### 調査内容 — 憲法 9 条の碑と平和の鐘

平和の象徴のハトと憲法 9 条の碑は、潮平さんのデザインです。  
平和の鐘は世界中から集められたコインで作られた鐘で、稚内市と国連ビルにもあります。

### まとめ

戦争についてのイメージがとても大きく変わりました。話を聞く前は、兵士と兵士の戦いだと思っていました。話を聞いた後は、そこにたくさんの、一般市民が巻き込まれ、兵隊よりも多くの住民が死亡することを知りました。

食糧難とマラリアに苦しめられ、多くの人がじわじわと死んでいく有様を、私は一生懸命想像してみましたが、私は飢えたことも、熱が出た時に薬がなかったこともないので、想像することがとても難しかったです。

戦争の体験を聞いて実際にあったことを知ると怖くなりますが、本当に恐ろしいのは、戦争を体験することです。戦争とはどういうものか、実際にあったことを知れば過ちは繰りかえされなれないと思います。

私は石垣島に住んでいたころ、近所のオバアに教えてもらった言葉の中でも、「命どう宝（ぬちどうたから）」という言葉があります。命に勝る宝はない、そんな言葉の意味です。今回の戦争について調べる際、この言葉の意味をより深く実感することができました。

私は、自分が必要としている情報を正確に探し求めることができる能力を、身に着けた大人になりたいと思います。そしてこれからの毎日の中で、今回学んだことをみんなに伝え、戦争を起こさない人々の輪を、広げていきたいと思います。

以上で私の発表を終わります。

発表資料



沖縄派遣

潤徳小学校 4年生 権田 百春さん  
保護者 権田 雅之さん



**潮平さんの自宅**



**亀甲墓**                      **暁の塔**



**通信指令室跡**



**通信指令室跡**



**平和祈念館**                      **戦争マラリア慰霊碑**



**憲法9条の碑**                      **平和の鐘**



**八重山毎日新聞の取材を受けました**



仲田小学校 5年 釜瀬 椀朋さん  
保護者 釜瀬 日哉さん

沖縄はエメラルドグリーンの海が広がる、本当に美しいところでした。

しかし、空にはたくさんの戦闘機が大きな音をたてて飛び、辺野古(へのこ)では美しい海を埋めて新しい基地を作っていました。

第二次世界大戦中、沖縄では20万人以上の人々が犠牲になりました。沖縄県民の4人に一人が犠牲になったそうです。子供達は、あまり攻撃されない地域に避難する「疎開(そかい)」をすることもありました。しかし沖縄では海の上も戦場で、船で逃げるのも危険でした。

1944年8月22日、今から75年前のちょうど今頃に沖縄から海を渡って九州へ疎開(そかい)しようとしていた船「対馬丸」は、アメリカの攻撃にあい、船に乗船した1788名のうち、約8割の1482名の人たちが、犠牲になりました。

私が行った、対馬丸記念館では、犠牲になった人達の写真がたくさんありました。

ほとんどが、私たちのような子供でした。子供達が学校生活を過ごした教室も再現してありました。黒板や机が並び、今私たちが過ごしている楽しい学校と同じでした。子供たちのひとりひとりの写真を見て、わたしたちと何も変わらない子供が犠牲になったことが悲しくなりました。

平和祈念公園内には、沖縄戦で亡くなった、20万人以上の全ての犠牲者の名前が刻まれている「平和の礎(いしじ)」がありました。

資料館では、ガマという地下に避難している様子の再現があり、赤ちゃんを泣かせたら味方である日本の軍人さんに殺されてしまうので、必死であかちゃんの口をおさえていました。ほかにもたくさんの人が死んでいる写真を見ました。

こわくてこわくて最初は見ることが出来ませんでした。ほんとうに起きたことなので、目をそらさないで、がんばって見てきました。

ひめゆりの塔では、ひめゆり学徒隊のたくさんの恐ろしい証言の映像が流れていました。たくさんの爆弾が雨のように降ったり、逃げ込んでいるガマの中に火炎放射器(かえんほ

うしゃき)を撃ち込まれた映像がありました。

証言では、目の前でお友達がうたれ、生きるためにお友達を置いて逃げなければならなかったり、敵に殺されるくらいなら一緒に死のうと手りゅう弾で自殺をしなくてはならなかったり、今では考えられません。

その中で、「戦争は勝った負けたにかかわらず、たくさんの人の命を奪っただけで、何も残さなかった」という言葉をずっと忘れないでいたいと思いました。

今ではたくさんご飯を食べることができ、殺されないでいられることがどんなに平和なのか知ることが出来ました。

わたしたちが今、平和なのは、戦争という時代を生きた人たちの犠牲なしではありえなかったことなので、戦争で犠牲になった人たちの分まで命を大切にして、生きていかなければならないと思いました。

#### 発表資料

沖縄派遣

仲田小学校 5年生 釜瀬 柊朋さん  
保護者 釜瀬 日哉さん



#### 対馬丸記念館



#### 平和祈念公園



#### ひめゆりの塔



日野第五小学校 6年 渡辺 満ちるさん  
保護者 渡辺 健太郎さん

僕は、戦争系ゲームが大好きな小学校六年生です。

今回、応募した動機は、ゲームの世界だから、楽しめる戦争ですが、現実に見立てるとすごく怖いことをしているなど、ふと思いました。

実際に、いまでも世界のどこかでは内戦をしている国があるので、戦っている人達や被害を受けている市民、戦いからは何も生まれない、血と涙しか出ないということと、戦争に関することを過去から学びたいと思い、応募しました。

僕は、今回の派遣事業で沖縄に行きました。

最初は戦争のことは興味はありましたが、真剣に調べたことも無く、よくわからなかったのですが色々な資料館を訪れることで戦争の悲惨さを目の当たりにし、学びました。

まず、旧海軍司令部壕での当時映像ビデオはものすごい悲惨なものでした。

これが本当に沖縄で起きたことなのか、今の沖縄からは想像もつきませんでした。アメリカ軍が銃を持って上陸してきて逃げまどう人をどんどん撃ってました。

旧海軍司令部壕の兵士たちは、まともな武器を持たず出口から出撃していき、大半が二度と帰ってくることは無かったといえます。

また、司令官室と作戦室に近い、部屋といっても穴を掘っただけの空間では、兵士が手榴弾で自決したときの破片の後がくっきりと、当時のまま残っていました。

次に、ひめゆりの資料館ではアメリカの戦場カメラマンが撮った映像が流れていました。

兵士に追われて、崖から飛び降りて自決する人。また、もう死んだとわかっている人の背中をたくさん撃っているアメリカ兵もいました。次々と倒れていく人の映像もありました。

また、生き残ったひめゆり学徒の方のお話の映像では、突然の解散命令に絶望し米軍が包囲する戦場を逃げ回り、あるものは砲弾で、あるものはガス弾で、そして、ある者は自らの手榴弾で命を失ったそうです。

終戦から 70 年以上経ちますが、戦場の惨状は生き残ったひめゆり学徒の方たちの脳裏を離れないと言います。

過去に、日本では戦争が起こっていたけど、自力で戦争の無い平和な日本に変えることが出来ました。

同じように今戦争を起こしている国も、いつかは日本のように平和な国になって欲しいです。

戦争で学校に行けなくなった人達、日本では学校に行くことが普通だから余り気にかけないけど、この学習を通して、募金活動などに積極的に関わっていきたいです。

以上になります。ご清聴ありがとうございました。

#### 発表資料

沖縄派遣

ひめゆり学徒隊

日野第五小学校 6年生 渡辺 満ちるさん

保護者 渡辺 健太郎さん

ひめゆりの塔



旧海軍司令部壕



世界屈指の美しさを誇る沖縄の海。その美しいコバルトブルーの海で、今から 74 年前、住民と兵士、合わせて 20 万人が亡くなる戦争があった事は、その美しい海と空からは想像が出来ませんでした。

日本各地でアメリカ軍の空襲があり、広島、長崎では原爆が投下されました。でも、一般市民が地上戦に巻き込まれたのは沖縄だけです。それは世界でも類を見ない悲惨な戦争でした。

私はこの夏、沖縄本島南部、南風原(はえばる)にある陸軍病院豪跡に行きました。

豪内は真っ暗で、何百人もの人がここで生きて帰りたいと思って亡くなったと思うと、とても悲しく、怖くなりました。

途中、二段ベッドのあった場所や、薬物を捨てた場所、手術室、更に兵士が自分の名前を刻んだ場所、学生の休息所がありました。戦況が悪くなり、この豪を撤退する時、自分で歩ける人は歩いて南部に移動。自分で歩けない人にはミルクの配給があると嘘を言われ、ミルクに混ぜて青酸カリと言う毒を飲ませたそうです。それを飲んで、静かになった人、逆に青酸カリに気付き、兵隊に「お前ら、それが人間のやる事か！」と怒鳴る人もいて、豪の撤退時は壮絶だったそうです。

また、当時の豪内は、血や便、垢などの強烈な匂いがあり、衛生的とは程遠い状況でした。

本来、病院は人を助ける場所であるはずなのに、逆に人を殺そうとした事に、戦争の悲惨さ、過ちを感じざるを得ません。

また、その豪内では私と同じ年齢の女子学生、沖縄県内で最も優秀な女子学生が集まる、沖縄師範学校女子部と県立第一高等学校女子部の学生が「ひめゆり学徒隊」として、軍に従事していました。

皆、戦争前、多くが教師になる事を夢見ていた女学生です。彼女らの仕事内容は、血や膿、汚物や死体の処理、時には麻酔も無い為、患者の手足を抑えて手術をする事もあったそうです。

食事豪内では作れないので、飯上げといって二人一組で、豪から命からがら炊事場に行き、また命掛けで豪内に戻りました。そこで空襲に会い、命を落とす人も多く、転んで食

事をひっくり返してしまう人も多かったそうです。

ここで、皆さんに伝えたい事があります。

戦争は、人間を人間でなくしてしまいます。人間の心を奪ってしまいます。

もしこの戦争がなかったら…、

沖縄戦の前で日本が戦争を止めていたら…、

多くの人達に違った未来があった事でしょう。

今、戦争を改めて考え直す大事な時期です。

なぜなら、戦争経験者の多くが 80 歳を超え、経験者が減少しているからです。私たち、戦争を経験していない世代がそれを学び、後世に伝えていく事が、何より戦争を防ぐ事だと思えます。

ここで、戦争で亡くなった方、悲しい思いをされた方に改めて誓います。

もう二度と…同じ過ちは繰り返しませんから…

以上です。ご清聴有難うございました。

## 発表資料

沖縄派遣

日野第二中学校 2年生 南本 英理さん  
保護者 南本 純子さん

憲法九条の碑 南風原文化センター



南風原陸軍病院豪跡



# 派遣者発表 長崎



長崎のげんばくしりょうかん、平和きねん公園に行つて。

ぼくは長崎のげんばくしりょうかんと平和きねん公園に行きました。

長崎の町はみどりが多くて川には、はしがいっぱいありました。きれいな教会やしょう店がいもあってたくさんの方がいました。原ばくがおとされて、やけてしまった町と同じ町とは思えませんでした。

今から 74 年前長崎にげんばくがおとされました。げんばくのひょうめんのおん度は、太ようと同じくらいのおんどだったそうです。げんばくのあつさ、ばく風、ほうしゃ線にあつたことでびょう気になった人もいて、たくさんの方がなくなりました。

しりょうかんには、ぐにゃっとねじれたビンや、人のかげがやきついた、いたがありました。

ぼくが一ばん心にのこっているのは、1まいのしゃしんです。そのしゃしんは一人の男の子が「気をつけ」のしせいで赤ちゃんをおんぶしています。せつめい文を読むと、せ中におんぶした赤ちゃんはなくなっていて、人をやく、やき場 というところに連れてきました。

男の子がはだしだったので、ぼくは「いたそうだな」と思いました。お母さんに「はだしで、いたそうだね」というと、「お父さんもお母さんもないのかもしれないね」といいました。

ぼくだったら、一人で死んだきょうだいをおんぶするなんて、できないです。あの男の子はすごいです。でも、さびしかったし、こわかったし、かなしかっただろうなと思いました。

ぼくがまい日していることは、学校へ行つて友だちとこうえんであそんだり、おなかいっぱいごはんを食べて、おふろにはいって、おふとんでねます。ユーチューブを見ることもゲームをすることもすきです。せんそうのときは、まいにちやってる、あたりまえのことができなくなるとして、こわくなりました。

しりょうかんには、せかい地図もありました。せかい地図には、かくへいきをなんこ持っているとか、かくじっけんをしていることが、目で見てわかるようになっています。

一つのげんばくでめちゃくちゃになってしまうのに、いま、この世かにはなん千こも、かくへいきを持っている国があることをしりました。こんなにひどいばくだんということをしらないから、たくさん持っているのかなと思いました。その国の人たちは「げんばくしりょうかん」に来て、べんきょうしたらいいのにとおもいました。

せんそうをしたら、大切な人や、ものや、しぜんがなくなってしまうから、せんそうはぜったいにしてはいけないと思いました。

ぼくは これからも思いやりのきもちをもって、せかい中のみんながなかよくくらしていけるよう、できることをせいっぱいがんばります。

### 発表資料

長崎派遣

潤徳小学校 2年生 山崎 希さん

保護者 山崎 理恵さん



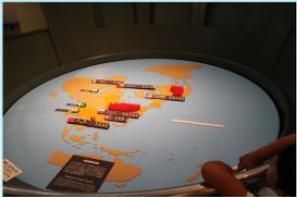
### 長崎の町の様子



### 長崎原爆資料館



### 長崎原爆資料館の世界地図



### 平和祈念公園



## 長崎平和学習

長崎は広島に続いて、2発目の原爆が投下されました。そして、市内にいた27万人が一瞬で被爆してしまいました。無差別で殺されました。

長崎に着いて最初に行ったのは、平和公園です。公園には平和の鐘や有名な平和記念像がありました。天を指す右手は原爆の脅威を、水平に伸ばした左手は平和を表し、閉じたまぶたは戦争犠牲者の冥福を祈っています。

平和公園近くの爆心地には、中心地碑がありました。そこで、僕は目を閉じて思いました。

原爆投下の瞬間、長崎にいた人たちはどんなに怖かったのだろうか。恐怖や悲しみ、痛みなど、どうして、その苦しみを受けなければならないのか、これ以上は言葉では表せません。実際、その場所に行った人しか分からない思いや気持ちがあります。

僕は、多くの人に伝えたいです。長崎に行ったことのない人は、一度長崎の爆心地に行つて、目を閉じてください。そして、亡くなった方々への祈りをしてください。

次に、爆心地から800m離れた山王神社に行きました。山王神社は、爆風で折れた鳥居が、一本で立っており、残った部分には熱線の跡が当時のまま残っています。

境内には、樹齢500年と言われる2本のクスノキがあります。そのクスノキは枝が焦げ、爆風で折れて誰もが枯れたと思いましたが、2か月後の10月に新芽を吹き始めやがて元通り大きく茂りました。

原爆から生き残った長崎の人たちの明るい希望となりました。

また、世界遺産にもなった軍艦島にも足を運びました。

軍艦島は、とても小さい島でしたが、一番多いときは5千人以上の方が暮らし、お互いに

肩を寄せ合い協力しながら暮らしたそうです。

原爆投下の時、爆心地から 11 キロも離れていましたが、爆風で窓ガラスが何枚か割れました。市内で苦しんでいる被爆者の救助に軍艦島からも多くの人が船で駆け付けたそうです。

最後に、僕が今回学んだことは、「戦争はしない」、「核兵器を使うことは長崎で最後にしなければならぬ」ことです。それが、長崎で被爆した人達の思いでもあり願いです。

僕が、長崎で感じたことや出来事は友達や多くの人にも伝えていきます。

そして、将来、自分の子どもが出来た時も必ず語り継いでいきます。これが、僕の使命だと思っています。

### 発表資料

長崎派遣

滝合小学校 4年生 伊東 朋洋さん  
保護者 伊東 洋輔さん



### 平和公園



### 爆心地



### 一本足の鳥居



### 被爆したクスノキ



### 軍艦島



七生中学校 1年 島村 侑那さん  
保護者 島村 由佳さん

私は、「戦争は怖いから嫌だ。あまり知りたくない。」と思っていましたが、以前訪問した沖縄ひめゆりの塔で、もっと戦争について知ることが必要と考えが変わりました。

今回、長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典に参列してきました。式典では長崎市長や市議会議員長などが平和宣言などをし、また外国の代表の方々もたくさん参列していました。

その中でも私は被爆者代表の山脇佳朗さんの「平和への誓い」が心に残りました。山脇さんは、爆心地から約2Kmの所で被爆しました。山脇さんのお父さんは爆心地から500mにある工場に働きに出ていて爆死されたそうです。お父さんを探しに行き、山脇さんはとても無残な体験をされたお話をして下さいました。

今の私とほぼ同じ年齢と思うととても悲しくなりました。

山脇さんは60歳を過ぎてから英語を独学で学び、2015年11月、長崎で開催されたパグウォッシュ会議で、世界の科学者に英語で『核兵器廃絶』に力をかけて下さい。」と訴えました。このように一人一人が「平和」を求め、「核兵器廃絶」を願い、これが世界全体に広がれば、日本だけでなく世界は平和へ導かれると思います。

しかし、この思いを広めてもすぐには世界全体に広めることは出来ません。戦争で被害を受けた日本にも戦争を知らない子ども、関心のない人たちもいるため、その人たちに戦争について考えてもらうことが必要です。

大人から子どもへ、またその子どもへと戦争について伝えていく、戦争について学び知ることにより多くの人々が戦争の恐ろしさを知り、戦争は絶対にしてはいけない、核兵器廃絶などの考えを持つことが大切だと思います。

今、日本は核兵器禁止条約に背を向けています。世界で唯一の戦争被爆国なのに、なぜ署名、批准しないのかと思います。これから私なりに考えてみたいと思います。

平和な世界をつくり、保っていくためにしてもらいたいことがあります。

戦争が何をもたらしたのかを知ること、人の痛みが分かることの大切さを知り、これを子どもたちに伝え続けること、諦めず無関心にならないことをしてもらいたいと思います。そして、地道に「平和の文化」を育て続け、核兵器はいらないと声を上げることをしてもらいたいです。

長崎を訪問するにあたり、学校の同級生や先生方などにも協力してもらい、平和公園にみんなの平和への願いを込めた千羽鶴を奉納してきました。平和公園内や原爆資料館などには、世界の国から平和を願って届けられたたくさんの鶴がありました。

また、原爆落下中心地公園には「平和の祈り キッズゲルニカ」が世界へ向けての平和のメッセージとして展示されていました。国内外の子どもたちが描いた大きな絵です。世界の子どもたちも平和を願っていることが感じられました。

今、私一人の力では小さなことしかできませんが、千羽鶴やキッズゲルニカのようにみんなの力を合わせることで、大きな力に変えることもできるようになると思います。

どんなに小さなことでも自分にも出来ることがあったらしていきたいです。

#### 発表資料



長崎派遣

七生中学校 1年生 島村 侑那さん  
保護者 島村 由佳さん



#### 原爆犠牲者慰霊平和祈念式典



#### 原子爆弾落下中心地碑 キッズゲルニカ





# 派遣者発表 広島



ぴか～。

74年前8月6日、地上600mで原子爆弾は爆発した。1.4秒の間に、ひとりひとりの頭の上に、なんと19トンものちからがかかり、つぶされた。

地上でさえ、温度は3000度から4000度になり、大型台風秒速50mをはるかに超える、秒速280mという、ものすごい熱風が吹き、半径500mにいたひとは即死、半径4キロの広島全土が壊された。

リニューアルされた平和祈念資料館に入って、ひとつめの部屋は、360度ドームのような部屋で、見渡す限り、原爆後の焼け野原となった広島でした。まるで自分が74年前、そこに一人で立っているような感覚になり、怖くなりました。

奥にいくと、形がわからないほど焼けた人の写真や、熱くて川へたくさんの人が流れ込むような絵があったり・・・。

あまりに怖くて、あまりに残酷で・・・。

人が焼け焦げ、なくなっている写真をカメラに収めることはできませんでした。

これだけおそろしい戦争。

「2度と繰り返してはいけない」と誰もがわかっているのに、なぜ世界から戦争がなくないいのか、わたしは不思議で、しかたありません。

戦争をする理由について調べてみました。

戦争のはじまりは、「もっと土地を広げたい」「お金がほしい」「ものがほしい」「自分の思い通りにしたい」という、誰もがもっている、とっともシンプルな人間の欲でしかないことに気がつきました。

この欲のままに、武器をもって、勝ち取るような形では、悲しみやうらみのがのこり、永遠に、争いに、終わりは来ません。

戦争をなくすためには、マザーテレサの言葉にあるように、「奪い合えば、足りず、ゆずりあえば、あまる」。

どちらか一方が満足のするのではなく、「一緒に住もう」「一緒に使おう」「一緒にわけよう」と、自分の欲を少しずつ我慢して、お互いに違いをみとめ、ゆずりあいながら、共に生きていくことが必要だと思いました。

また、今回、遠い世界の出来事と思っていた戦争が、「知る」ことによって、自分ごとになりました。

私に今できることは、まずクラスの友達にわたしが感じた衝撃や悲しみを伝えていきたいと思います。

戦争がなくなるためには、やはり、人間の心のことや、戦争の歴史をまなぶなど、学校が大事なのだと思いました。

発表資料

平和記念資料館②



広島派遣

潤徳小学校 4年生 角川 凜さん  
保護者 角川 ちひろさん



平和記念資料館①



原爆ドーム



日野第六小学校 5年 川上 陽美さん  
保護者 川上 陽子さん

戦争のない平和な世界を目指して

1945年8月6日、午前8時15分に広島に世界初の原子爆弾が落とされました。被爆当時のままの姿を今にとどめる「原爆ドーム」は1996年に世界遺産に登録されました。

今では、恒久平和のシンボルとして戦争の悲惨さと平和の尊さを訴えている「原爆ドーム」を私が訪れたのは8月5日です。

多くの方々が平和記念公園に来ていましたが、私は早速、何か自分に出来ることはないかと考え、核兵器廃絶の署名に協力しました。

そして、30万人以上の原爆死没者名簿が納められている「原爆死没者慰霊碑」に祈りを捧げて来ました。

翌8月6日には、「広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式」に参列しました。式典には、世界92ヶ国の代表が参加していて、平和を祈り願う気持ちに国境はないことを改めて感じました。

式典終了後は、今年の4月にリニューアルした「広島平和記念資料館」を見学しました。

被爆前後の街の様子を最新CG映像で見て、これまで本やテレビで見ていた以上の迫力がありました。

展示の中でも特に私の記憶に深く刻まれたのは、原爆で一瞬にして命を奪われた人々の遺品や写真の数々です。何の罪もない人々の日常や命が奪われたことは、本当にショックで、ズシリと私の心に響いてきて言葉を失いました。

戦後、生き残った人々も原爆の後遺症で苦しみ続けている姿に涙が止まりませんでした。

3年前に、現役大統領として初めて広島を訪問してスピーチしたアメリカのオバマ大統領の折り鶴も見学しましたが、戦争をしたアメリカと日本が世界平和に向けて手を取り合って協力していくことは、とても大切なことだと思いました。

資料館見学後は、「原爆の子の像」に慰霊の為の折り鶴を捧げて来ました。  
 宇宙を表現したドーム型の屋根の「平和の鐘」も、心を込めて突きました。  
 その日の夕方には、元安川で開催された「ピースメッセージとうろう流し」にも参加して、  
 平和を祈って来ました。

私が今回の広島訪問で感じたのは、悲惨な戦争の過去を決して忘れてはならないという  
 事です。

二度と戦争を起こさない為に、国や人種や価値観の違いを超えて、世界中のみんながお  
 互いに助け合い、平和のために行動することが大切だと思います。

その為に、私も家族や友人を初め、周りの人達と仲良くして一緒に平和について考えて  
 行動していきます。

発表資料

 <p style="text-align: right;">広島派遣</p> <p>日野第六小学校 5年生 川上 陽美さん          保護者 川上 陽子さん</p> 	<p style="text-align: center;"><b>原爆ドーム</b>      <b>核兵器廃絶の署名</b></p>  
<p style="text-align: center;"><b>原爆死没者慰霊碑</b>      <b>広島平和記念資料館</b></p>  	<p style="text-align: center;"><b>原爆被害者の遺品・写真</b>      <b>オバマ大統領の折り鶴</b></p>  
<p style="text-align: center;"><b>原爆の子の像</b>      <b>平和の鐘</b></p>  	<p style="text-align: center;"><b>平和への誓い</b></p> 

日野市立三沢中学校 2年の谷口義哉と申します。

日野市の平和派遣事業で広島を訪問させていただきました。これからご報告をさせていただきます。

1945年8月6日 午前8時15分。

その時、広島は「カタカナのヒロシマ」になりました。

原子爆弾、つまり原爆が、人類史上初めて、ヒロシマに落ちたのです。ほんの一瞬、たった1人の人間が、1つのスイッチを押しただけで、人々の暮らしは壊れました。

何万人、何十万人の方が原爆で亡くなったか、皆様ご存知でしょうか。実は、最先端の技術を用いても、正確な死没者数は判明していないそうです。

その理由としては、この原爆で一家全員、亡くなってしまったり、爆心地に近いところで原爆を受け、影しか残らなかったため、誰がここで亡くなられたか分からなかったり。

また、疎開で人が行き来していて、その時、広島にどれだけの人がいたかわからない、当時の広島市民について書かれた書類などが焼けてしまった、とのことでした。

私が初めて原爆ドームを見た時、何の言葉にも表せないほどの衝撃がありました。細部を見ていくと、建物の出入り口は全てなくなり、大きくひしゃげた鉄骨が現れていました。

もともと、とても大きな建物だったはずなのに、今は大きさが半分以下になっていました。

ここには、確かに、人々の暮らしがあった。

みんなの生活がありました。

朝、お母さんの作ったお弁当を楽しみにして家を出て、お弁当を食べることができずに亡くなったという子どもの話も知りました。

たった1つの小さな爆弾で、爆心地から1.2kmの地点では、その日のうちにほぼ50%、

それより爆心地に近い地域では、実に 80～100%の人々が死亡したと推定されています。

戦争はいけないことです。

でも、戦時下であれば、原子爆弾の投下は仕方がなかったのでしょうか。

違います。

たとえ戦時下にあっても、原爆は絶対に投下してはいけなかった、と私は思います。

なぜか。

それは、大量破壊と大量殺戮を、瞬時に、無差別に引き起こしたからです。奇跡的に生き残った人々も、ただ生き残ることができたわけではありません。放射能被害で長期間、苦痛を強いられました。

世界中で、いまだに戦争や紛争があります。

私たちにできること、それは、これを我が事として共感し、周囲の人々に自分の言葉の表現で伝えていくことと私は考えます。

それが、いつかきっと、私と同じように、誰かがこのことを考えるきっかけになると思っています。

いつか世界から本当の意味での争いがなくなることを信じて…。

これで私の報告を終わります。





広島派遣

三沢中学校 2年生 谷口 義哉さん

保護者 谷口 綾さん



ひしゃげた鉄骨



原爆ドーム

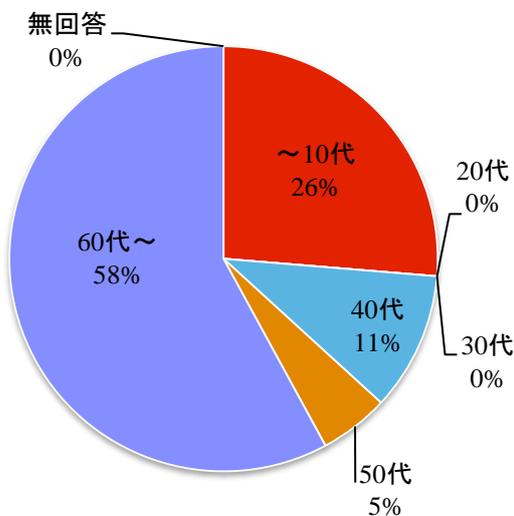


平和記念公園



### 3 来場者アンケート

#### (1) 御来場者の年齢層



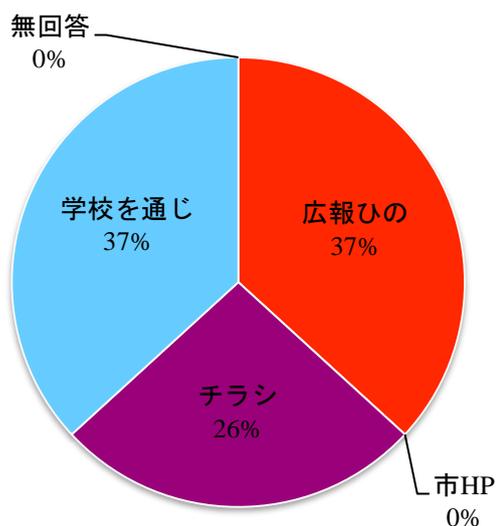
#### <担当者コメント>

50代、60代以上の方で半数以上を占めました。一方で20代の方がいらっしゃらず、幅広い年齢の方に来ていただけるようにしていきたいと思います。

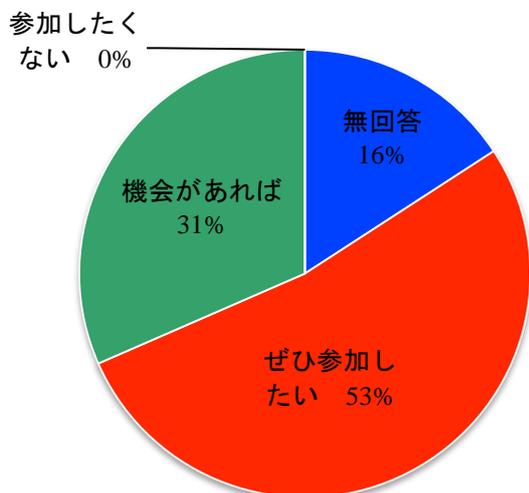
#### (2) イベントを知ったメディア

#### <担当者コメント>

「広報ひの」と学校を通じて配布したチラシをみた方が同数でした。上記(1)の課題でもある20代から50代の方にも参加していただけるよう、周知方法が課題です。



#### (3) 次回の参加希望



#### <担当者コメント>

参加された多くの方が次回の参加を希望されています。自由記載の欄に「もっと多くの方にこの事業を広め、参加者をふやしてほしい」などのお声をいただきました。上記(1)(2)と共通する課題であり、より多くの方に参加していただける方法を検討します。

## 4 日野市民憲章／日野市核兵器廃絶・平和都市宣言

### 日野市民憲章

昭和 58 年 1 月 1 日制定

わたくしたち日野市民は、多摩川・浅川につづく平野と丘陵の自然環境に恵まれたこのまちを、生活の中のふるさとと考へ、みんなのしあわせのためにこの市民憲章を定めます。

- 1 元気に働き いきいきとして 心ゆたかなまちをつくりましょう
- 1 手をつなぎ ともに健康で 明るいまちをつくりましょう
- 1 自然を守り 緑と清流と太陽の 美しいまちをつくりましょう
- 1 人を大切にし 弱い人にも子どもにも 思いやりのあるまちをつくりましょう
- 1 文化をつちかい うるおいのある 平和なまちをつくりましょう

### 日野市核兵器廃絶・平和都市宣言

昭和 57 年 10 月 8 日議決

巨大な量の核兵器は、米ソ両国の戦略兵器制限交渉などをもつてしても、もはやその拡大を止められない事態となつている。

ひとたび核兵器が使用されることになれば、その結果は全人類とその文明の滅亡であることはいうまでもない。

日野市は、核兵器が地球上から姿を消す日まで、その廃絶を叫び、平和が市民生活の基本であるとの理念のもとに、ここに日野市が核兵器廃絶・平和都市であることを宣言する。

令和元年度日野市平和事業 平和派遣事業成果報告書<沖縄・長崎・広島>

---

令和2年1月21日 発行

発 行 **日野市**

印 刷 (有)三珠印刷所

編 集 **日野市総務部総務課**

東京都日野市神明一丁目12番地の1

電話 (042) 514-8128

---

